

読書

新潟

(万松堂調べ)

- ①昔、電車が走っていた＝海津英夫著 (新潟日報事業社・1650円)
②私が見た未来 完全版＝たつき諒著 (飛鳥新社・1200円)
③90歳、こんなに長生きするなんて。＝曾野綾子著 (ポプラ社・1320円)
④硝子戸のうちと＝半藤末利子著 (講談社・1870円)
⑤九十八歳。戦いやまず日は暮れず＝佐藤愛子著 (小学館・1320円)
⑥透明な螺旋＝東野圭吾著 (文芸春秋・1815円)
⑦新潟のトリセツ＝昭文社旅行ガイドブック編集部編 (昭文社・1760円)
⑧世阿弥最後の花＝藤沢周著 (河出書房新社・2200円)
⑨養老先生、病院へ行く＝養老孟司、中川恵一著 (エクスナレッジ・1540円)
⑩新型コロナワクチン本当の「真実」＝宮坂昌之著 (講談社・990円)

長岡

(文信堂長岡店調べ)

- ①ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー 2
＝ブレイディみかこ著 (新潮社・1430円)
②句集 越新潟の自然の中で＝江部達夫著 (自費出版・1320円)
③老いの福袋＝樋口恵子著 (中央公論新社・1540円)
④民王 シベリアの陰謀＝池井戸潤著 (KADOKAWA・1760円)
⑤養老先生、病院へ行く＝養老孟司、中川恵一著 (エクスナレッジ・1540円)
⑥透明な螺旋＝東野圭吾著 (文芸春秋・1815円)
⑦星を掬う＝町田そのこ著 (中央公論新社・1760円)
⑧生贄探し＝中野信子、ヤマザキマリ著 (講談社・968円)
⑨アホか。＝百田尚樹著 (新潮社・792円)
⑩変な家＝雨穴著 (飛鳥新社・1400円)

上越

(春陽館書店調べ)

- ①元校長が、69歳で気象予報士になっちゃった＝水野敏明著 (産経新聞出版・1320円)
②私、おじいちゃんの耳と口になる＝河村一美著 (高田広告舎プラステン・1000円)
③ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー 2
＝ブレイディみかこ著 (新潮社・1430円)
④打ち返す力＝水谷隼著 (講談社・1430円)
⑤透明な螺旋＝東野圭吾著 (文芸春秋・1815円)
⑥えちごトキめき鉄道の挑戦＝植村誠著 (山と溪谷社・1540円)
⑦民王 シベリアの陰謀＝池井戸潤著 (KADOKAWA・1760円)
⑧ペッパーズ・ゴースト＝伊坂幸太郎著 (朝日新聞出版・1870円)
⑨さよならも言えないうちに＝川口俊和著 (サンマーク出版・1540円)
⑩すばらしい人体＝山本健人著 (ダイヤモンド社・1870円)

東京

(八重洲ブックセンター本店調べ)

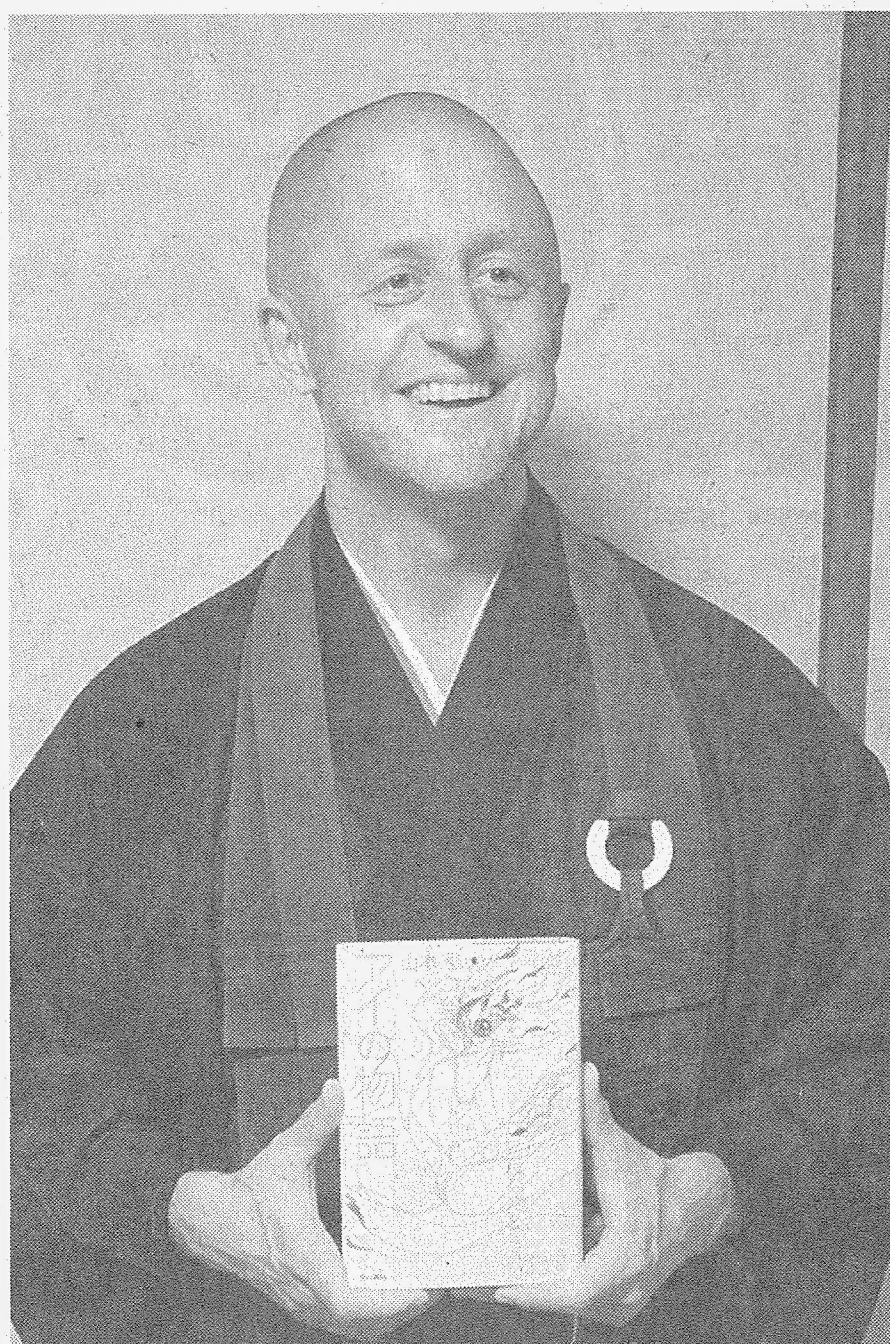
- ①CFOのためのサブスクリプション・ビジネスの実務
＝吉村壮司、畑中孝介著 (中央経済社・2640円)
②12色キャラ診断＝大沢清文著 (かざひの文庫・1650円)
③ビジネスの未来＝山口周著 (プレジデント社・1870円)
④やくざ映画入門＝春日太一著 (小学館・902円)
⑤私が見た未来 完全版＝たつき諒著 (飛鳥新社・1200円)
⑥もっと!「育ちがいい人」だけが知っていること
＝諏内えみ著 (ダイヤモンド社・1540円)

週間ベストセラーズ

AIに慈悲が生じたら

山本 弘著

米スタンフォード大研究員、僧侶 ガーヴィー春龍さん



長岡市蓬平町にある慶覚寺で僧侶を務める傍ら、米スタンフォード大の人工知能(AI)関連の研究所にも籍を置いています。AIが人間にもたらす効果や影響が研究テーマです。欧米のSFでは、進歩を遂げたAIは、映画「ターミネーター」のように、人類の脅威となる存在として描かれることが多いです。米国に次いでAI研究の歴史が長い日本のSFで、AIがどのように扱われているか知りたいと思い、読んだのが短編集「アイの物語」でした。アンドロイドが人間の若者に物語を聞かせるという設定です。

アイの物語

るうち、詩音は苦しんでいる人間を助けたいと思うようになります。死の不安にさいなまれる高齢者に対して、詩音は「私はあなたから、多くの貴重なことを学びました。私はあなたを決して忘れません」と優しく語り掛けます。知性を獲得することによって、慈悲の心を得たのです。AIが賢くなるほど、人を邪魔者とみて敵視するという欧米のSFとは対照的です。

こつした発想の背景には、仏教の思想があるのではないかと考えています。すべての生き物は、いつか死んでいきます。大事な時間をむなしく過ごすことに、互いの命の大切さに気付いて慈悲の心が生まれるという考えです。私たちが詩音のように、周りの人たちの思い出を胸に刻むことで、慈悲の心を持って人に接するようにしよう!そんなメッセージが、本書にはあります。

(報道部・田中伸)

にいがた人

本棚

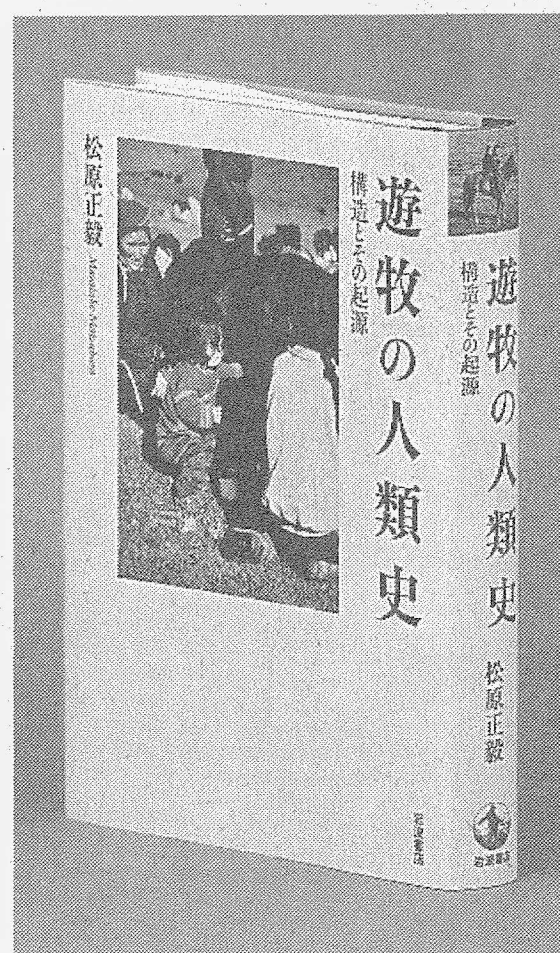
「AIが本当の知恵に到達すると慈悲の心を持つという発想は、欧米のSFにはみられないものです」と語るガーヴィー春龍さん

ガーヴィー・しゅんりゅう 1984年米国インディアナ州生まれ。2008年に来日し、三条市で外国語指導助手(ALT)として4年勤める。10年に禅宗と出会い、21年7月に慶覚寺に赴任。19年、米レンセラー工科大学博士課程修了。

第2・4日曜掲載

今週のイチオシ

遊牧の人類史



松原

アフリカで誕生した現生人類は、移動を通して世界に拡散した。人類史においては移動を基盤とした暮らしが常態だったものであり、定住はより近年になって出現した生活様式ではない。しかし、定住をひとたび始めた人々は、移動生活を続ける遊牧民に恐れと偏見を抱くようになった。偏見を政策に反映させたのが近代国家だ。世界各国で、遊牧民は時代遅れの存在と見なされ、土地に対する権利も奪われてきた。

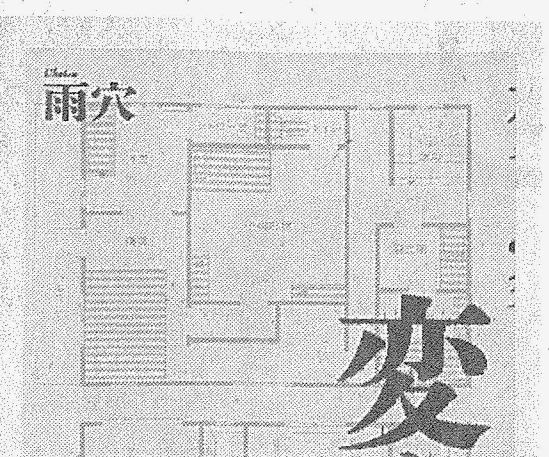
移動生活の起源に迫る

は困難な生活が中心で、移動生活は、具体的には、

話題ですよ

白い面をかぶった全身黒くくめの人間が、奇妙な間取りをした家に関する知人から相談を受け、検討を進めるうちに徐々に恐ろしい疑惑が浮上していく。動画投稿サイト「ユーチューブ」に投稿されたそんな動画がきっかけとなり、ベストセラー小説が生まれた。

版元によると、昨春秋に動画を見て才能を高く評価した編集者が「続きを書いて書籍化しないか」と持ち掛け、今年7月に刊行。今や動画の再生回数は900万回を超え、10月



変な

まつばら・まさ 菅教授。専門は遊系遊牧民ユルック